

札幌市立北光小学校の取組

1. 研究のねらい

本校における体力向上については、通年で体育の時間や休み時間に縄跳びを継続して指導している。成果として、シャトルランなどの種目において伸びが見られる。

ただ、本校における冬期間の屋外での運動については、スキー学習と休み時間でのそり遊びが中心であり、継続した取組については十分ではなかった。また、本校の児童の体力の実態は、各種目においてほぼ全国平均ではあるが、「ソフトボール投げ」については、全国平均をやや下回る学年が高学年に散見される。

このことから、グラウンドに数種類の的を設置し、雪玉を用いて的に向けて投げる「北光スノーボールターゲット」を実施し、新たに冬季における、さらなる体力と投力の向上を図ることをねらいとしている。

また冬季の地域行事として 46 回を数える「鉄東地区冬の祭典」にも多くの本校児童が参加し、地域との交流を行っている。



2. 取組内容

(1) 冬を楽しみ、雪で鍛える「北光スノーボールターゲット」

～雪玉を使い、楽しみながら投力の向上を図る～

①目標

- ・授業時間、休み時間を中心に放課後にも児童に開放し、楽しく雪を使って遊ぶ。
- ・的当てをグラウンドに常設し、屋外での運動の機会が減る冬期間も含め、通年で楽しみながら「球を投げる」場を設け、毎年 10 月に全校で行っている「スポーツテスト」の結果を全国平均と同程度まで向上させる。

②今年度の取組

テント地で作成した的（6 種類 6 枚）をグラウンドに常設し、授業時間や休み時間において、自由に使うことができる環境づくりをしている。

初めての取組であることから、安全面を考え、的に慣れるため積雪前にバックネットに 1 枚設置し、ソフトボール等で事前に練習できるように配慮した。積雪前にそれぞれの児童の投力に応じて的までの距離をあらかじめ知ることで、実力に応じた児童同士の高め合いが可能になった。

また、『雪玉製造機』を業者の協力を得て作成した。冬期間において雪玉を用いる利点として、「何回でも」



雪玉製造機

数多くの雪玉を投げることができるため、失敗を気にせずに取り組むことができる。特に低学年の児童においては、雪玉を作ることが難しい児童もいる。『雪玉製造機』を使って、教師が事前に雪玉を作り置くことで、低学年の児童でも数多くの雪玉を投げることができる。「遠くに」「強く」「正確に」投力を鍛え、雪に親しみ、雪で鍛え、冬期間における体力向上を図っていきたいと考える。

(2) 鉄東地区雪の祭典に参加しよう ～冬季における雪を通じた地域との交流～

①目標

- ・学校日より等で告知し、学級においても広く参加を促す。
- ・雪上で存分に身体を動かし、地域の方や友達と冬の日を楽しむ。

②今年度の取組

この行事は、例年冬休み最後の日曜日に連合町内会の体育会が中心となり実施されている。今年度は、約 200 人（うち児童 80 人ほど）の参加者があり、「親子そり引き競争」や「雪上綱引き」、「雪中みかんひろい」などの競技を行った。競技終了後は、豚汁や甘酒が振る舞われ、家族や地域の方々、久々に会う友達などと冬の日を楽しく過ごした。

冬季に身体を動かすことと地域の行事に参加するこの取組は、大変貴重な機会であり学校として協力体制を継続していく。今後もまた、多くの児童が参加するよう学校としても発信していきたいと考える。



3. 成果と課題

(1) 成果

的のお披露目を運動会の昼食時間に行った。保護者の方々の本気になった的を目がけ球を投げる姿を見た子どもたちは、「自分もやってみよう」と意欲を膨らませていた。また、6種類のデザインを用意し、使い方や難易度を変えることで、運動の継続につながっている。

本校における冬期間の屋外での運動については、スキー学習と休み時間でのそり遊びが中心で、いつでも誰もが活動できる環境ではなかった。しかし、グラウンドに的を常設することで、学習や遊びの幅が広がり、友達同士誘い合ってグラウンドへ行く姿が多くなった。

また、「冬の祭典」に参加した児童からも「寒かったけれど、たくさん身体を動かして楽しかった。」「冬でもたくさんの人と運動ができたし、賞品ももらったのでよかった。」などの感想も聞かれ、冬期間の活動の楽しさを味わうことができた。



(2) 課題

今年度は、初めての的を設置したので、興味をもった的当てを楽しむ姿が多く見られる。しかし、投力の向上や雪と親しむことの習慣化を目指したとき、的や場に工夫を加え、今の意欲を持続させたい。